

「日本語ボランティア入門講座 ～横浜で始めよう！日本語ボランティア～」

主催：(公財)横浜市国際交流協会

日本語ボランティアについて「知りたい」「やってみたい」という方が、はじめの一歩を踏み出せるように「日本語ボランティア入門講座」を開催しました。

■講座の内容

- 第1回：日本語ボランティア活動って、どんな活動？
- 第2回：日本語教室って、どんなところ？
- 第3回：試してみよう！日本語ボランティア活動
- 第4回：1部 次の一歩を踏み出そう！
2部 交流会

講座受講者の声

- お互いどんな人なのか好きなことや出身等からでも話し合っていくとその後のディスカッションが活発になるのを実感できました。ボランティアに対する概念が一方向的に教えるものから、コミュニケーションをとりながら相互に理解する活動という風になりました。
- コミュニケーションの大切さを改めて感じました。
- グループワークで、日本語を教えるということは自分の学びでもあるということ、双方向で学び合う教え合う場であるということに気付きました。
- 皆さんの熱意を感じ、これからはもっと前へ進みたいと思っています。

■講座概要

日本語学習支援を、地域でともに暮らす外国につながる人との多文化共生のための活動と捉え、その考え方や方法を軸とした日本語学習支援のための入門講座を開催しました。「日本語を教える」ことだけでなく暮らしと日本語について学びました。

■講座の目的

1. 地域の日本語教室で活動する人の育成を通じて、多文化共生の地域作りを進めます。
2. 日本語ボランティアを募集する地域日本語教室と活動希望者をつなぎます。これを通じて、地域日本語教室との連携を進めます。
3. 日本語ボランティアに対する研修プログラムを検討します。

■講座の特徴

受講者同士がワークなどを通じて互いに知り合い、コミュニケーションの大切さを体験的に学びます。

日時

2023年 9月8日・15日・22日・29日
金曜日 13:30～16:00
9月29日は13:30～16:30

場所

横浜国際協力センター共用会議室

講師

長嶺倫子さん 第1回・第3回・第4回
(横浜国立大学非常勤講師)
日高嘉恵さん 第2回・第4回
(日本語で楽しむ会・トピックスかいわ教室)

対象

横浜市在住・在勤・在学で日本語支援を行いたい人、始めたばかりの人

参加者数

講座参加者：17人 (のべ参加者数55人)
交流会参加者：26人
内訳・講座受講者 14人
・地域日本語教室ボランティア 5教室6人
・日本語学習経験者 6人
(インド、中国、台湾、ミャンマー)



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama Nihongo Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします！



「日本語ボランティア入門講座～横浜で始めよう！日本語ボランティア～」

第1回9/8
(金)
13:30-16:00

講師
長嶺倫子さん

「日本語教室活動って、どんな活動？」

目的

日本語学習者や、日本語ボランティアについてのイメージを持つ。

第2回9/15
(金)
13:30-16:00

講師
日高嘉恵さん

「日本語教室って、どんなところ？」

目的

地域日本語教室の多様性を理解し、教室活動の体験をする。

【お互いを知る活動】

第1回目の講座では、受講者同士の交流をしました。

グループで自己紹介をした後、自分の好きなことを話しました。「私の好きなこと」は日本語教室の活動でも学習者とよく話す話題です。今回はそれを実際に受講者同士で話し、どうだったかを共有しました。

「好きなこと」はどんどん話したくなる／もっと相手を知りたくなる／自分の体験と同じ体験をしていると互いの距離が近くなった気がした。

受講者のみなさんは、それぞれが好きなことを話すことで、お互いのことが少し分かり、これからの講座が楽しみになった様子でした。

【私のまわりにいる外国人】

自分の周りいる身近な外国人について話をしました。

- 盆栽のサイトを通じて知り合った外国人がいる。
- 外国人の人とのファーストコンタクトが難しい。子育て広場で会った外国人の人と話したいが、どうやって話しかけたらよいかかわからない。
- 外国人の人と一緒に働いたことがある。時々、その人は「はい、はい」と言っていたが、わかっていないでうなずいていた。
- 病院や役所では日本語だけで大変だと思う。

【どんなボランティア活動がしたいか】

これからどんな日本語ボランティアをしたいかを話しました。

- 生活に密着し、生活の橋渡しとしての日本語活動をしたい。
- 料理、食べ物など互いの文化を知る活動を一緒にしたい。
- 参加型のボランティア活動。グループワーク、ゲーム、クイズなど。
- 生活支援 ○共に学ぶ活動 ○子ども達の交流の場づくり

【様々な生活場面での日本語】

講師から、日本語教室に集まる様々な背景を持つ学習者の話、そして、どのような活動を行っているのか、具体的な教室活動の紹介がありました。

【具体的な教室活動のイメージ】

第1回の講座で考えた日本語ボランティア活動を、具体的な素材を使って、どのような活動するかをイメージしました。

- スーパーのチラシを使って、食べ物の話をする。
- 旅行のパンフレットを見ながら話す。
- レストランのチラシを見ながら、ことばを学ぶ。



【日本語ボランティア活動体験1】

受講者はボランティアと学習者役になり、日本語教室活動を体験してみました

体験後の感想

- 学習者役は初級という設定だったので、どうやっていいのか戸惑ってしまった。
- どの程度ゆっくり話したらいいのか、匙加減が難しかった。
- ボランティア役の人が話をじょうずに広げてくれて話しやすかった。

体験して気が付いたこと

最後に活動体験の振り返りをしました。受講者のみなさんは、「楽しく勉強できる」「おしゃべりはライブ感がある」「学習者は多様な学習スタイルがあるのでは？」「ことばを知らなくておしゃべりができない人もいるのでは？」など多くの気づきがありました。



「日本語ボランティア入門講座～横浜で始めよう！日本語ボランティア！～」

第3回9/22
(金)
13:30-16:00

講師
長嶺倫子さん

「試してみよう！日本語ボランティア活動」

目的

- ・地域日本語教室で、実践可能な活動案を考え、実際にデモンストレーションをする。
- ・やさしい日本語の視点を学び、学んだ視点を実践に生かす。

【日本語ボランティア活動体験2】

第2回の講座に続き、教室活動体験を行いました。

テーマは「私の宝物」、受講者のみなさんは準備してきた「宝物」を見せながら、話を広めていきました。思い出のスニーカーや友人にもらった絵など、様々な「宝物」についてやり取りをしました。

- 「宝物」を話すことで、その人の新たな一面が見えた。
- 一歩踏み込んで、その人を知ることができた。
- 自分をオープンにすることができる。

講師からは、ここで話しても大丈夫という安心感がある場を作ることが大事、もっと話したい、もっと聞きたいという場があることが大事であるというコメントがありました。

【やさしい日本語】

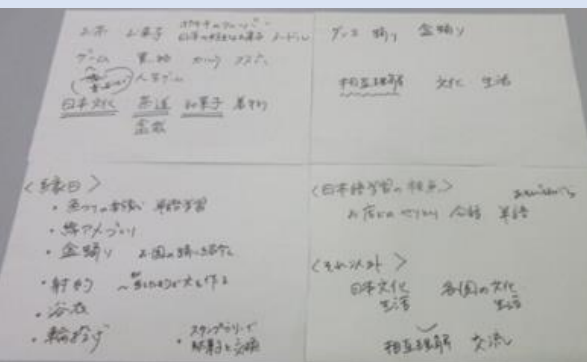
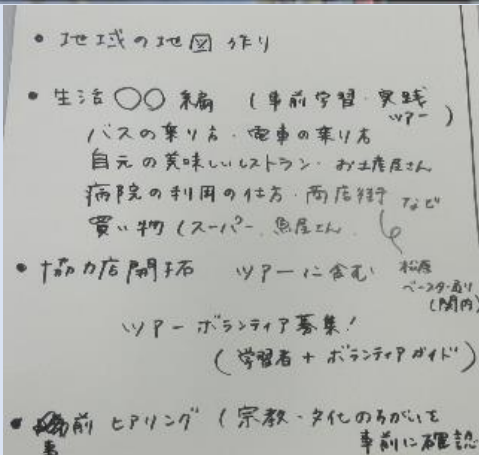
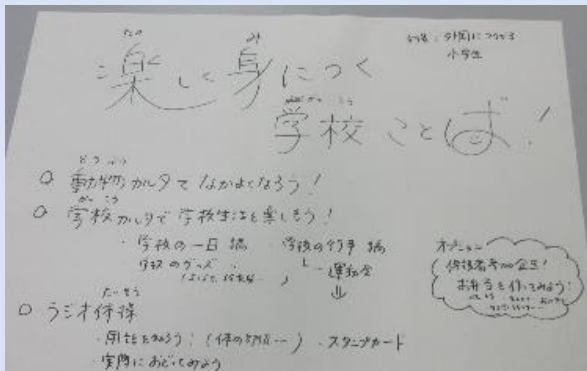
「やさしい日本語」がどうしても必要な、伝えあうための「やさしい日本語」をワークを入れて学びました。やさしい日本語は、相手がわかっているかどうかを確認し、ことばを変えたりしながら、話を進めることが大事であるというお話がありました。

【具体的な活動案を作る】

第1回、第2回の講座でイメージした活動や体験したことを基に実際に、教室で実践可能な教室活動を作り発表しました。

活動をするためにはどのようなアプローチが可能か、結果として何が学べるかも考えました。

日本文化（茶道、和菓子、着物、盆栽など）やお祭りなどのイベントを行う中で、日本語を学んだり互いの文化に触れたり、交流する活動が多くありました。みなさんの発表を聞いた受講者の中には「今すぐにもやってみたい！楽しそう！」という声もありました。



「日本語ボランティア入門講座～横浜で始めよう！日本語ボランティア！～」

第4回9/29
(金)
第1部
13:30-15:00

講師
長嶺倫子さん

「次の一歩を
ふみ出そう！」

目的

講座での学びや気づきを振り返り、日本語ボランティア活動に対して前向きな気持ちになること。

第2部
「交流会」
15:00-16:30

講師
日高嘉恵さん

目的

講座受講者、日本語学習経験者、地域日本語ボランティアが、同じテーマで話し、日本語教室に対する互いの想いや考えを知る。

【講座の振り返り】

最終回の講座では、「学んだこと、気づきなど」「もう少し知りたかったこと、疑問点など」「どんな次の一歩？」を受講者各自で考え、みなさんと共有しました。

①学んだこと、気づきなど

共に学ぶ姿勢／学習者の様々な背景／学習者にいかに話してもらうか／グループワークを通してコミュニケーションの大切さを学んだ等

②もっと知りたかったこと

やさしい日本語はどうやって学ぶのか／日本語ボランティアに関わる人ってどんな人？／日本語教室の実態／会話と読み書きのバランス／日本語支援と生活支援の線引き等

③どんな一歩？

地域の国際交流ラウンジで活動したい／お祭りをやってみる／講座で企画した活動をやってみたい／外国の人を見かけたら微笑む、手伝える等

講師からのまとめ

学習者は、日本語で相手に自分の言いたいことが伝わるのが自信につながります。ボランティアが「あなたのやりたいことを知りたい、あなたをみているよ」と相手に伝えることが大事。そこから学習者のニーズもわかってきます。ぜひ、みなさん、勇気を持って、最初の一歩を踏み出してください！

交流会では、受講者が具体的な活動場所につながることを目的とし、日本語学習経験者、地域日本語教室ボランティアの方々が集まり、それぞれの立ち場や経験を踏まえ、日本語教室活動について、意見交換をしました。

全員で意見交換



地域日本語教室の紹介



<交流会では、地域日本語教室のボランティアの方に次のような質問がありました>

- ・ボランティアをしているのは、どんな人が多いですか。仕事をしている人もいますか。
- ・同じ学習者と1対1でやるのですか。
- ・日本語教室でイベントは定期的に行っているのですか。
- ・子供の学習支援の活動はしていますか等

交流会では、日本語ボランティア活動を始める際の不安や心配ごとを話し、地域日本語教室のボランティアの方から、励ましの言葉をいただきました。

参加者の声

<地域日本語教室のボランティア>

- ・ボランティアに参加するにあたっての不安等があったら、それを解消したいです。
- ・教室を紹介することで自分の活動場について考えるきっかけになりました。

<日本語学習経験者>

- ・たくさんのボランティアの方から自分がやりたいボランティアの話を知りました。
- ・日本語教室活動に興味があります。



よこはま日本語学習支援センター
Yokohama Nihongo Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします！

